



廖修平「源」2005年

# 廖修平・江明賢 二人展

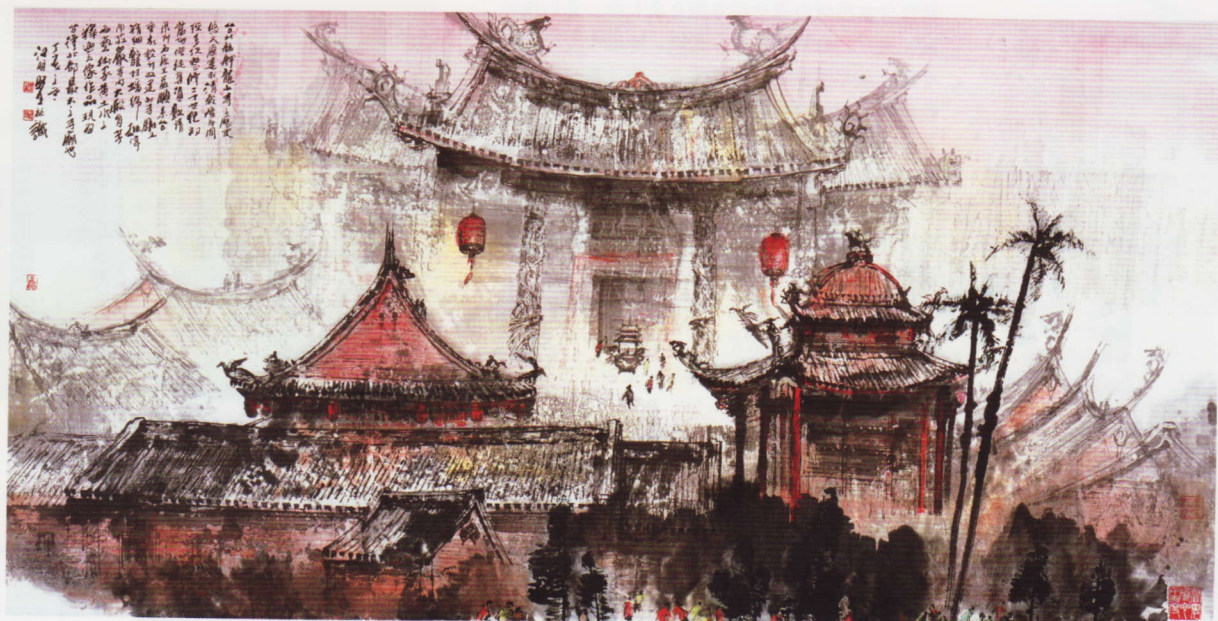
2009年4月7日[火]～5月17日[日]

※会期中一部作品の陳列替を行います。

前期:4月7日[火]～26日[日] 後期:4月28日[火]～5月17日[日]

開館時間:午前9時～午後5時(ただし、入館は4時30分まで)※毎週金曜日は午後7時まで(ただし、入館は6時30分まで)

休館日:4月13日(月)、20日(月)、27日(月)、30日(木)、5月7日(木)、11日(月)



江明賢「艋舺龍山寺」2007年

主催:渋谷区立松濤美術館・読売新聞東京本社・美術館連絡協議会

後援:台北駐日経済文化代表處・財団法人交流協会・

社団法人日本版画協会

協賛:ライオン・清水建設・大日本印刷

特別協力:財団法人寄暢園文化藝術基金會

入館料 一般300(240)円・小中学生100(80)円

※( )内は10名以上の団体料金・60歳以上及び障害のある方無料・土曜日は小中学生無料

渋谷区立松濤美術館

The Shoto Museum of Art

東京都渋谷区松濤2-14-14 TEL 03-346-9421

渋谷駅下車徒歩15分、京王井の頭線神泉駅徒歩5分

# 台湾の心



江明賢「總統府」1998年

廖修平(1936～)は台北に生まれ、国立師範大学卒業後の1962年に東京教育大学に留学。ついで、パリに留学し、ヘイターの版画工作室で本格的に版画の各種技法を習得、更に米国に渡りニューヨークのブラット・インスティテュートで研究を重ねました。1977年に再来日、筑波大学で教鞭をとり版画研究室創設に尽力。その後米国に居を構えつつ、米国、台湾、大陸などで現代版画の各種技法を伝えました。この間、東京版画ビエンナーレ、サンパウロ国際版画展などの各種国際展で受賞を重ねています。「台湾現代版画の父」と称される彼の作品は、青銅器文様をモチーフとした初期の作品から、「門」、「木頭人」、「四季之叙」、「黙象」、そして近年の「無語問天」などの諸連作があります。各種の生活用品を符号として用いることで東洋的、台湾的な精神を追究し続けています。

江明賢(1942～)は台中に生まれ、台湾師範大学美術系を卒業。スペインに留学後、米国に住

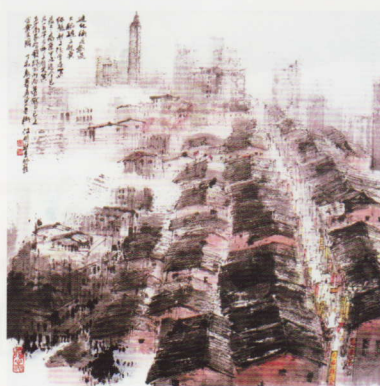
## ● 廖修平・江明賢 二人展

むこと数年、西洋の美学、表現技法を学び、素描・水彩の技法を伝統的水墨画の中に取り入れ、新たな水墨画の道を切り開きました。その後台湾に戻り、台湾、日本、米国、中国などで個展を開くなど国際的に活躍する一方、國立台灣芸術学院、台湾師範大学などで後進の指導にあたりました。1988年には台湾の国家文芸賞を受賞しています。その作品は生長した台湾・台中の原風景を土台に、台湾各地の特色ある風景、建築を主たるモチーフとして制作、台湾の風土を的確に描写しています。

本展では今日の台湾の美術界で指導的立場にある両氏の作品を紹介するとともに、その作品を通して、戦後台湾美術の足跡を検証したいと考えます。



江明賢「集集火車站」1998年



江明賢「迪化街鳥瞰」2007年

### 座談会:

「台湾版画の現況と日本」  
4月7日(火) 午後2時～

廖修平(版画家)  
中林忠良(版画家)  
森野真弓(版画家)  
園山晴巳(版画家)

### 美術映画会:

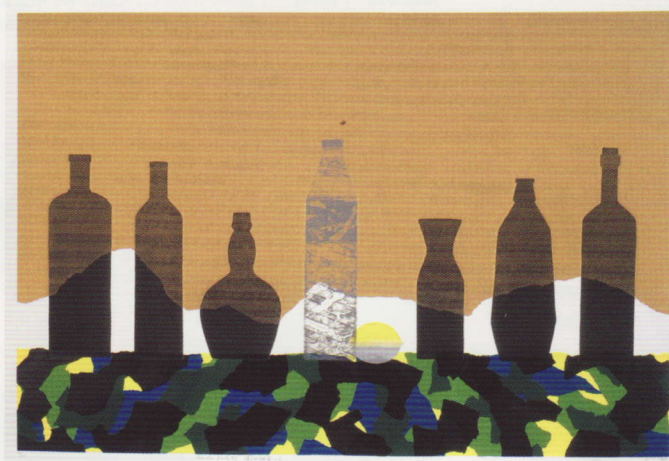
4月18日(土) 午後2時～  
「故宮博物館の名蹟」  
国宝「十一面観音」  
5月16日(土) 午後2時～  
「故宮書法的美」  
国宝「興福寺 当麻寺」

### 美術相談:

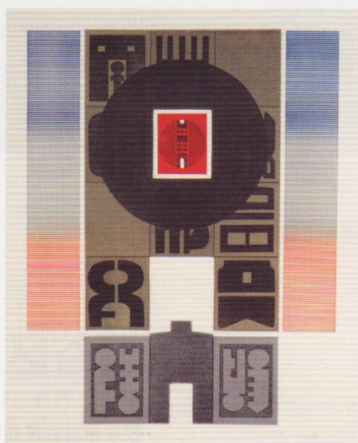
4月19日(日) 午後2時～4時  
講師 佐藤 喜勇(油彩)  
5月17日(日) 午後2時～4時  
講師 広畑 正剛(油彩)

### ギャラリートーク:

4月11日(土) 午後2時～  
5月2日(土) 午後2時～  
5月9日(土) 午後2時～



廖修平「園中雅聚#9」1992年



廖修平「太陽節」1969年



廖修平「木頭人86-2」1986年

## The Shoto Museum of Art 渋谷区立松濤美術館

〒150-0046 東京都渋谷区松濤 2-14-14 TEL.03-3465-9421  
JR 渋谷駅下車徒歩 15 分、京王井の頭線神泉駅下車徒歩 5 分

